

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 5月26日(日)まで
「シャクナゲ・ツツジ展」
- 5月29日(水)～7月15日(月・祝)
「知られざる植物の世界～絶滅危惧植物展～」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 4月16日(火)～5月6日(月・祝)
「坪谷富男山菜図展」
出展：加茂生物同好会
- 5月8日(水)～5月26日(日)
「竹、山ぶどう、クルミ、アケビ等の作品展」
出展：藤春工房、三条下田生きがい教室
- 5月29日(水)～6月9日(日)
「花と緑の写真展」
出展：秋葉区老連写真倶楽部
- 6月11日(火)～6月30日(日)
「押し花の仲間たち」
出展：森のアトリエ
- 7月2日(火)～7月15日(月・祝)
特別展 中乃波木「薔薇ンス」展
能登の風景や村人を撮った作品群で注目を浴びる写真家、
中乃波木(なかの はぎ)さんの特別展示

特別展示●観賞温室第3室2階 ほか

- 5月21日(火)～5月26日(日)
「クレマチス展示」
出展：鈴木光一(日本クレマチス協会)
- 5月29日(水)～6月9日(日)
「サツキ展」
出展：上田盛樹園

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 5月9日(木)10:00～11:30
「植物園花散歩②」
定員:10名 参加費無料
講師:田中良明(当園職員、樹木医)
- 5月19日(日)13:30～15:30
「カフェ deカルチャ『お散歩カメラ』」
定員:10名 参加費:1,000円(お茶とスイーツ代)
講師:こばやしゆみ(PCインストラクター)
- 5月26日(日)13:30～15:00
「クレマチスを楽しむ」
定員:30名 参加費無料
講師:鈴木光一(日本クレマチス協会)
- 6月7日(金)11:00～12:30
「植物と食文化講座『地元食材でイタリアン』」
会場:5 SEASONS kitchen(五泉市寺沢3-5-12)
定員:30名 参加費:1,500円
講師:倉重祐二(当園副園長)
- 6月13日(木)10:00～11:30
「植物園花散歩③」
定員:15名 参加費無料
講師:久原泰雅(当園職員)
- 6月16日(日)10:00～11:30
「マツの剪定」
定員:15名 参加費無料
講師:田中良明(当園職員、樹木医)
- 6月20日(木)10:00～11:30
「マツの剪定」
定員:15名 参加費無料
講師:田中良明(当園職員、樹木医)
- 6月23日(日)10:00～11:30
「いしかたキッズプロジェクト・グリーンカーテン講座
「親子でグリーンカーテンをつくってみよう」」
定員:10名 参加費無料
講師:倉重祐二(当園副園長)
- 7月7日(日)13:30～15:30
カフェ deカルチャ第2回特別カメラ講座
「花となかよく美しく」
定員:15名 参加費:1,500円(温室入館料・お茶代込)
講師:中乃波木(写真家)

にいつ花ふるフェスタ

ステージイベント、にいつ食の陣当日座、ミニSLの運行、ミニガーデンコンテスト作品展示など内容盛りだくさん。また、フェスタ当日に限り、観賞温室は入館100円デーを実施します。

●平成25年6月2日(日)
10:00～16:00

会場:屋外園地(入場無料)
主催:にいつ花ふるフェスタ実行委員会

おもしろ授業
あなたの知らない植物の話

世界最大級の花を咲かせるショクダイオオコンニャク、野生ギクの絶滅、身近なタンポポの秘密の生活など、第一線で活躍中の講師をお招きして、興味深い植物を分かりやすくお伝えします。

●平成25年6月30日(日)
13:30～16:00

会場:花と緑の情報センター2階研修室
講師:邑田仁(東京大学理学部教授)
中田政司(富山県中央植物園園長)
森田竜義(新潟大学名誉教授)

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)

入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料

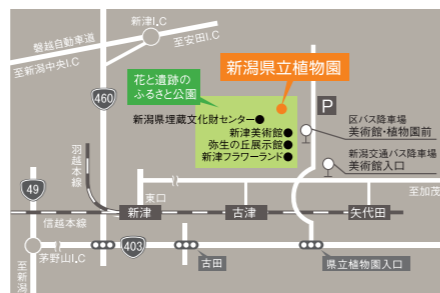
●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

4	5	6
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ 1 2 3 4 5 6	・ ・ ・ 1 2 3 4	・ ・ ・ ・ ・ 1
7 8 9 10 11 12 13	5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8
14 15 16 17 18 19 20	12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15
21 22 23 24 25 26 27	19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22
28 29 30 ・ ・ ・	26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28 29

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

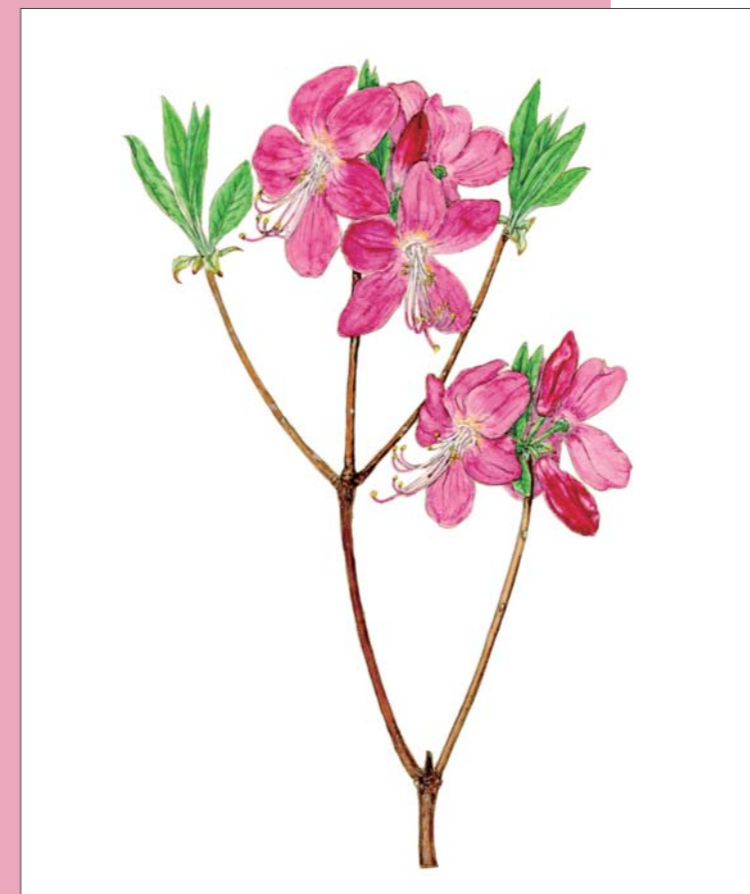
高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R / 信越線古津駅から徒歩約25分

バス/区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

T956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



富樫信平画 荒川町産 S.61.4.27.

ムラサキヤシオツツジ

Rhododendron albrechtii

(ツツジ科)

ムラサキヤシオツツジは深山から亜高山帯にはえる高さ1～2mになる落葉性低木で、枝は2～3分枝し、若枝には線毛があるが後に落ちる。深山に生えるので一名ミヤマツツジともいわれている。葉は花がすんでから伸び、短枝の葉は枝先に3～4枚がやや車輪状に互生する。また、長くのびた長枝にはややまばらに互生する。葉身は倒卵形または広披針形で先は鈍頭、基部はくさび形で短い柄がある。葉質は洋紙質で両面に少し毛がある。

花は5～6月頃、葉の出る前に枝先に3～4花を付け、花柄は1～3cm。花冠は丸味をもっており、花色は紅紫色で非常に美しい。雄しべは10本(通常レンゲツツジ節は5本である)。

分布は北海道、本州(滋賀県以北)で日本特産種である。

解説:富樫信平(抜粋)





15th ANNIVERSARY

*新潟県立植物園は今年で開園15周年を迎えます。

15周年をむかえて

日頃より、多数の県民の皆様から、新潟県立植物園をご利用頂きまして感謝申し上げます。当園は、平成10年12月1日に開園し、今年で15周年を迎えます。

開園以来の入園者は、間もなく250万人を迎えます。また、熱帯ドーム温室を中心とする有料施設の観賞温室への入館者も近々、100万人を突破する見込みとなりました。誠に有難うございます。

このように平成25年度は、当園にとって節目の年度であり、記念すべき年となります。そこで、県民の皆様のご長年のご愛顧に感謝して、15周年記念行事の第1弾として、ゴールデンウィーク(4/26～5/6)の期間、観賞温室の入館料を無料とさせていただきます。

これからの時期、植物園はチューリップを始めとしてポタンや様々の花々が咲きほこり最も美しくなります。是非この機会にお誘い合わせで、大勢の皆様からご利用頂きたく存じます。職員一同お待ちしております。

新潟県立植物園長 山森和敏



平成10年12月「新潟県立植物園」正式開園

平成12年 日蘭友好400周年記念「オランダ友好フェア」を開催



平成13年 観賞温室の企画展示をリニューアル。アザレア展を開催

平成14年 本州で2例目となるパオパブの開花



ツツジやシャクナゲの品種群ごとの展示



展示会場



葉に斑が入るアズマシャクナゲ「弥生錦」

シャクナゲ・ツツジ展

平成25年
4/10(水)
5/26(日)

企画展示

新潟県は全国を代表する鉢物花木の産地であり、全国の8割以上の西洋シャクナゲを生産しています。産地としての歴史も長く、大正時代に西洋シャクナゲが導入され、昭和初期には大規模な生産がはじまっています。昭和10年に大華殿(ゴマー・ウォータラー)や秀峯(サツフォー)など、親しみやすい独自の日本名をつけたのも新潟市の長尾草生園でした。

品種改良の面でも昭和10年には他に先駆けて実生による新品種が長尾草生園から発表されており、昭和40年代には木口一二三によって、シャクナゲと有鱗片シャクナゲの交配種「妖精」と「ミニグラマー」が、ミニシャクナゲと呼ばれる有鱗片シャクナゲの園芸品種が数多く発表されています。また、昭和50年代からは、樋口昭男によって「貴婦人」「舞娘」など、30品種以上が作出され、現在も県内で生産される西洋シャクナゲの一角を担っています。

このような背景から、新潟県立植物園では、野生種、園芸品種を含め約750種類をコレクションしています。また、園芸文化を保存するという観点から、本県で作出されたアザレアや西洋シャクナゲを後世に伝えるための収集、保全栽培を行っています。

今回の展示では当園のコレクション200種類以上のシャクナゲ、ツツジを展示します。西洋シャクナゲの大株や県内で作出された品種、「胡蝶摘」や「花車」などの江戸時代のツツジの園芸品種、現在ではほとんど見られなくなった木口氏作出のミニシャクナゲ、クルマツツジとサツキの交配によって作出された桑野交配等を展示します。特に珍しいものとしては本園のみが所有する台湾産のミツバツツジ、チランシャネンセヤ、日本産シャクナゲの斑入り品種があります。

長い栽培と品種改良の歴史を持ち、日本最大の生産地である新潟県ならではの展示であり、5月上旬に最盛期を迎える園内のツツジ、シャクナゲの花と一緒に楽しむことができます。



平成15年 花と緑の魅力と不思議を伝える「ようこそ緑の夢王国」を出版



平成16年 新潟県立植物園友の会の発足
平成17年 ボランティア活動を開始



平成18年 オオオニバスが県内初開花



平成19年 食と花の世界フォーラム「花の国際見本市」を開催初開花



平成20年 開園10周年フェスティバルでシーボルトの里帰り植物を記念植樹



平成21年 環境省の生息域外保全モデル事業としてオキナグサの保全を行い、魚沼市生物多様性保全シンポジウムを開催



平成22年度より春の花のイベントが連携した「春一番、いいがた花三昧。」を開催

観賞温室
企画展示

知られざる植物の世界 ～絶滅危惧植物展～

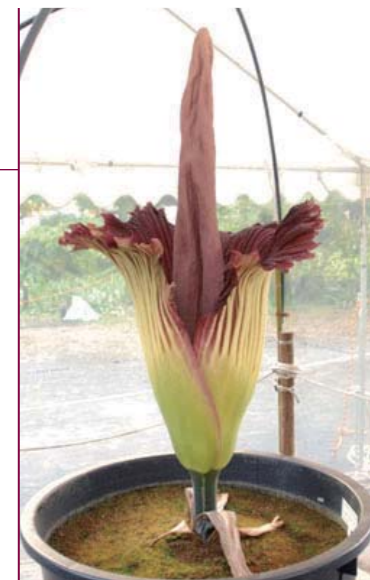
平成25年
5/29(水)
7/15(月・祝)

植物は昆虫の次に多くの種が確認されており、全世界に約27万種が知られます。その中には、私たちの想像もつかないような機能を持つ植物もあります。

今回の展示では、新たに導入するショクダイオオコンニャクやグライダーのように飛行するアルソミトラの種子などの普段目にするのできない植物と、その特徴を紹介する他、昆虫から見た花の色や植物が出す香りの役割などの身近な植物の意外な機能分かりやすくご紹介いたします。

その一方で、現在多くの植物が絶滅の危機に瀕しており、その原因の多くは人間の活動によると考えられています。今回の展示では、当園の所有する、絶滅危惧植物を展示し、またお子様も楽しめるクイズコーナーを設置し、アルソミトラの種子の模型を飛ばすことができます。

6月30日(日)には、おもしろ授業「あなたの知らない植物の話」を開催します。授業に先立って東京大学大学院理学系研究科附属植物園(小石川植物園)の邑田仁園長からショクダイオオコンニャクの贈呈を受ける他、同日にはアルソミトラの種子模型を飛ばして競う「種子のグライダー(アルソミトラ)飛ばし大会」を実施しますので、是非ご参加ください。



小石川植物園で開花したショクダイオオコンニャク(Amorphophallus titanum)



グライダーの原型となったアルソミトラ(Alsomitra macrocarpa)の種子の模型



魚沼市の棚田の畔に残る絶滅危惧植物オキナグサ(Pulsatilla cernua)

写真で振り返る15周年

NEWS 1

春の園内の楽しみ

春の園内は四季の中で最も花の多い季節です。4月になれば、ミツバツツジやヤブツバキ(ツバキ園)、カンヒザクラ(サクラの山園路沿い)が咲いていますし、中旬になるとエドヒガン、ソメイヨシノ、オオヤマザクラが咲き始め、園内に植えられた35種類(野生種と園芸品種)が追うようにして咲き乱れます。新潟市陸上競技場周辺のソメイヨシノの開花がニュースなどで報じられますが、植物園のソメイヨシノは、それより2日から3日遅く開花することが多いようです。

5月に入るとボタンが咲き始めます。ボタンの開花は春の天候に左右されやすく早い年には4月25日頃から咲き始めますが、遅い年ではゴールデンウィークに入っても咲かないことがあります。ボタンにも早生種と晩生種がありますが、他の花のように大きな差があるわけではなく1週間程度の違いです。1つの花の見ごろは2から3日、株全体でも1週間程度です。この季節の園地は、週ごとに主役の花が変わってゆく楽しい季節です。(田中良明)



オオヤマザクラ
(*Cerasus sargentii*)



エドヒガン
(*Cerasus spachiana* var. *spachiana* f. *ascendens*)



カンヒザクラ
(*Cerasus campanulata*)



ボタン園



夏休みの木工教室



ハーブを使った石鹸や香りグッズ



アメリカンフラワー

NEWS 2

新しい講座と体験教室

植物園では、今年度より、植物を育ててみたいけど、どうやって育てたり、楽しんだらよいのか分からないという方に、気軽に簡単に楽しめるガーデニングを講座を開講します。

第1回は、園芸福祉士でガーデナー、新潟日報のエッセー「うふふぐりーんらいふ」でおなじみの、ごんだいらあやこ先生をお迎えして、ハーブを使ったキッチンで役立つウッドボックスをつくるなど、今年度はさまざまなアレンジで手軽に楽しめる3回の

NEWS 3

つつじ絵本解説を出版

国立国会図書館所蔵「津し絵本」は、ツツジ類の彩色図と名寄せからなる和綴りの稿本ですが、著者や成立時期は不明であり、これまでその存在は知られていなかったものの、掲載されている品種等についての詳細な調査はされていませんでした。

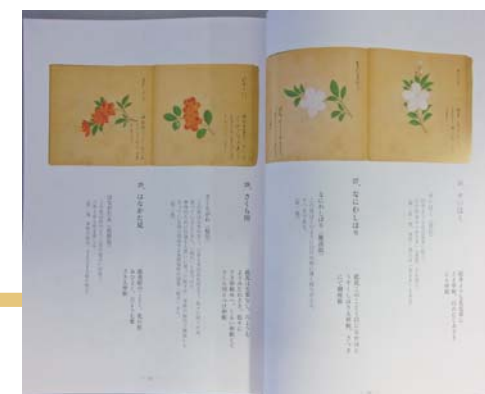
この調査を島根大学生物資源学部の小林伸雄教授、豊島区郷土資料館の秋山伸一先生と共同で行い、日本学術振興会科研費の助成により出版しました。

これまでの調査では、「津し絵本」には395品種が掲載され、そのうち136品種の彩色図が描かれていることが分かりました。また、ツツジの品種が掲載されている江戸時代(17世紀)の園芸書、「花壇綱目」や「錦繡枕」等との品種名の比較を行ったところ、多くの「津し絵本」の品種が他の園芸書にも掲載されていることが明らかになり、1695～18世紀のごく初期に制作されたと考えられました。

本調査によってこれまで不明であった江戸時代中期のツツジ園芸品種の花色や形態の詳細が明らかになり、現存品種との比較研究もできる点で研究資料としての学術的価値は大きく、同時に日本の高度な伝統園芸文化の理解の深化に貢献するものと期待しています。(倉重祐二)



江戸時代のツツジ園芸品種395種類が掲載されている「津し絵本」の解説書



ツツジの流行した17世紀後期の品種の彩色図が掲載されているのは非常に貴重

ガーデニング講座を開催します。また、昨年度に引き続き好評をいただいているカフェdeカルチャでのカメラ講座やフェルト講座も行います。

植物園まつりや夏休みに開催する体験教室では、木工、竹細工、プリザードフラワー、アメリカンフラワー、ハーブを使った教室などを植物園まつりや夏休み期間中に開催し、好評を得ています。今年度はさらに回数と内容を充実させますので、是非家族でご参加ください。(渡辺弘友)

温室●熱帯の宝石 メディニラ・マグニフィカ
(*Medinilla magnifica*)



熱帯植物ドームに入るとすぐ、洞窟の階段を上ると展望台があります。温室内でも特に気温と湿度が高く霧が立つこともある場所です。そこには熱帯アジアの標高1,000~2,500m付近に存在する雲霧林をイメージし、一年を通し温暖で湿潤な気候を好む植物を植えています。

ランやペゴニア、ピレヤシャクナゲなどの他、岩山壁面にはエアプランツのチランジア、南米の酒ブルケの原料となるアオノリュウゼツランなどもあり、さほど広くもない場所ですが、興味深い植物が多くあります。

中でも開花するとひときわ目を引くのが、メディニラ・マグニフィカ(ノボタン科)です。葉脈がくっきりとした、先の尖った卵型の大きな葉が特徴で、枝先からピンク色の大きな苞に包まれた花房ができます。苞が開くと中からブドウのように枝分かれした花房に数十輪の花が咲きます。ピンク色の花弁、雄しべは軸(花糸)が黄色で葯は青紫色と、じつにカラフルです。市場では熱帯の宝石と称される植物で、その名前からも開花時の華やかさが想像できます。

当園では5月頃に開花します。階段が困難な方は洞窟奥へ進むとエレベーターもございます。順路のなかでもわりと省略されがちな展望台エリア、上がってみると同じドーム内でも少し違った雰囲気と、時には宝石のように美しい花に出会えるかもしれせん。



大きなたつぼみ 開きはじめる



ブドウのような房に多数の花が咲く 一株に多くの花房がつき、開花時は見事

(小柳裕美)



園地●春に香るオオチョウジガマズミ
(*Viburnum carlesii*)

花真っ盛りの4月下旬、エントランスの宿根層花壇を上ると、甘い香りが漂ってきます。周囲を見渡すとガマズミのような、ジンチョウゲのような花が見つかりました。オオチョウジガマズミです。

オオチョウジガマズミはスイカズラ科ガマズミ属の植物で、丁子(クローブ)に花形や香りが似ていることから名づけられました。朝鮮半島南部および日本では長崎県の対馬にのみ生育し、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧IB類に指定されています。変種にはチョウジガマズミがありますが、本種のほうが1花序につく小花の数が多く、葉に円みがあるのが特徴です。丁子の丁は「釘」を意味し、筒状の花の先端がわずかに開いている形が釘に似ていることによりますが、花に香りがある特徴と併せて考えると、この花には筒の中の蜜を吸うことができる蛾の仲間が訪れるのではないかと考えられます。

その他にも、春の植物園には同じスイカズラ科のツクヌキニンドウやバイカウツギ、コブシなど、甘い香りをもつ花が沢山咲きますので是非お楽しみください。

(久原泰雅)



ツクヌキニンドウ (*Lonicera sempervirens*)



コブシ (*Magnolia kobus*)



バイカウツギ属の園芸品種 'ベル・エトワール' (*Philadelphus 'Belle Etoile'*)は、ヒノマルバイカウツギとも呼ばれる

友の会通信

「新潟県立植物園 友の会」は今年で10年目を迎え、会員数200名を超える会へと成長しています。入会は随時受け付けています。



平成24年度春の観察会(妙高夢見平)



写真展示



親子教室



当間山のブナ林(夏の植物観察会)

＜今年度の活動予定＞

- 平成25年度総会●4月21日(日)
- 植物園まつり出店●5月4、5日
- 花ふるフェスタ「ミニガーデンコンテスト」出品●6月
- 植物観察会(行先未定)●6月、8月、10月
- クリスマス交流会●12月
- 友の会展示(観賞温室第3室にて)●2月

そのほか、月に1回、打ち合わせと植物園内や周辺の植物観察会を行う予定です。詳細は会員へのおたよりでお知らせしています。

友の会 総会のご案内

平成25年度の総会を下記の日程で開催いたします。新しい事業を中心とした年間計画の説明、植物園倉重副園長による講演を予定しています。多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしています。

日時:平成25年4月21日(日) 13時30分から午後3時まで

会場:新潟県立植物園 花と緑の情報センター2階 研修室

花絵づくり 参加者募集!



昨年春の花絵



花絵づくりのようす

例年、植物園まつりでの人気企画、「チューリップの花絵作製」を今年は4月27日(土)に開催します。花絵づくりへの参加は、会員、非会員を問いません。ぜひご参加ください。

花絵づくり:4月27日(土)午後1時スタート

新潟県立植物園 友の会 会員募集

植物園友の会は植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同いただける方の会です。平成25年度の会員を募集します。詳細は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。年会費(4月より翌年3月まで) ●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員(一口) 10,000円 会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています) ●株式会社アート ●有限会社齋藤不動産